

平成21年度第3回鳥取市政懇話会 全体会議事概要

- 1 日 時 平成22年1月20日(水)午後2～3時
- 2 会 場 鳥取市役所本庁舎6階全員協議会室
- 3 出席者 鳥取市政懇話会委員(29名)
市長、両副市長ほか関係部、課長など

4 会議概要

(1) 市長あいさつ

平成21年3月に「鳥取市文化芸術振興条例」を制定し、文化振興に積極的に取り組んでいる。

- ・「2009 鳥取・因幡の祭典」、「日本のまつり・2009 鳥取」の開催、「ふるさと祭り東京」への参加など、地域伝統芸能を活かした魅力づくり
- ・市制120周年記念:「鳥取市人物誌『きらめく120人』」の発刊
- ・鳥取市民会館の整備(耐震化、照明施設の取替えなど機能の充実を図る。)
- ・地元出身の漫画家『谷口ジロー氏』の知名度アップの取組み。(PRポスターやはがきの作成。「父の暦」の映画化への取組み(フィルムコミッションとの連携))

『人を大切にすまち』の実現を目指す市政において、文化、教育は、「人づくり」において重要と考えている。

多彩で夢のある取組を進めていきたい。

(2) 会長あいさつ

文化芸術の取組みは、教育、観光など様々な分野に関係し、文化活動が盛んなところは元気がいい。地域力が高まる。

谷口ジロー氏は海外でも有名。ポスターはPRに最適。

(3) 議事概要

文化芸術の振興について(企画推進部)

西村文化芸術推進課長:市の取組み等について説明

- ・鳥取市文化芸術振興条例は、議決を得て文化芸術の振興を明言、画期的なものと評価できる。県内初制定。
- ・「日本のまつり・2009 鳥取」、「鳥取市人物誌」、「出前講座」、「市民会館改修」など条例制定後ハード、ソフト面での取組みを進めている。

意見交換

委員:集落に埋もれている宝がある。集落での文化活動として、集落史の作成に対して、この条例はどの程度使えるのか。

西村課長:文化芸術振興の財政措置を行うことを条例(第7条)に明文化している。集落史が支援に該当する事業であれば、活用できるのでは。

企画推進部長:集落史の作成が「まちづくり協議会」の取組の一環であれば、活動費の助成を活用できる。

委員：名誉市民に選ばれた「遠山正瑛氏」の顕彰について。文献の保存など「やまびこ館」などでの展示はどうか。

企画推進部長：前向きに検討していきたい。

鳥取砂丘ジオパークセンター（現在整備中）に、「遠山正瑛氏」を顕彰し、文献や写真等の常設展示場を設置します。

委員：「鳥取市人物誌『きらめく120人』」について、全国区で活躍されている「澤田廉三さん（岩美町出身）」は『きらめく120人』に入っていないが、人物の選定基準は。

林副市長：市が誕生した明治22年から現在までに、市制に影響を与えた人を選出した。活躍の場は市内外を問わない。澤田さんについては、鳥取市の発展への寄与度が明確でなかった。その他にも同じような方は多くいたが、編集委員会で条件を絞って、選定を行った。

委員：発刊した後の取組など、文化素材の観光活用も含めて、今後の文化芸術振興の展開について。市民に知っていただくことに加え、より市外へも発信していくといった面的な広がりが必要である。

市長：今後の展開については、

- ・新たに名誉市民に選ばれた方の紹介展示を検討している。
平成22年1月22日から市役所本庁舎玄関ロビーで顕彰しています。
（常設）
鳥取市名誉市民をエネルギー・ウィンドウギャラリーで紹介しています。（平成22年2月1日～3月31日）
- ・「鳥取市人物誌『きらめく120人』」は、多くの方に読んでいただきたい。図書館でも貸出す。郷土愛が育成することを期待する。完結版ではなく、今後もより整備された人物誌を発行していきたい。
- ・「わらべ館」で谷口ジロー氏の作品（まんが）展示を検討中。代表作である「父の暦」の映画化を実現したい。「まんがサミット（県事業）」で、国際的に有名な谷口ジロー氏の知名度を高めたい。
- ・しゃんしゃん傘踊りは、国内だけでなく、世界的に有名な地域伝統として育てたい。

委員：しゃんしゃん祭の開催日について

市長：土日開催でも観光客や踊り子は増加している。今回は、開催日や内容の見直しの時期。協議会で、5年ぶりにお盆に開催予定となった。多くの方が参加しやすいよう『しゃんしゃんウィーク』の設定や「貝がら節」、「太鼓」など他の伝統芸能の披露などが提言されている。ホテルや旅館のキャパも考慮している。

（2）その他

- 5 配布資料
 - 会議次第
 - 文化芸術の振興について
 - 市政懇話会の開催状況